

令和5年度 学校経営要綱

八女市立上陽北小学校

【経営基盤】 公教育を行い、現代社会の要請や子ども・保護者・地域の願いに応える学校

【学校の教育目標】

礼節を重んじ、主体的に行動し、自他の幸せを追求する子どもの育成

【学校の理念】

校訓「温故創新」・・・先人の知恵を大切にしつつ、新しいことに取り組む。

【中期目標】

主体的に、課題を解決する子どもの育成

【めざす学校像】

一人一人を大切にする学校、地域をよく知り大切にする学校、義務教育学校のよさを生かした学校

【めざす子ども像】

自分も周りの人も大切にし、めあてに向かって進んで取り組む子ども

《知》 学習に対する目的意識や達成感をもって、学習に取り組んでいる。

《徳》 相手の立場や状況を考え、思いやりの心をもって行動している。

《体》 心や体の健康に関心を持ち、健康づくりに進んで取り組んでいる。

【めざす教師像】

心と体の健康に留意し、子どもと同僚を大切にし、学び続ける教師

【教育課題】

- お互いを大切にする人間関係づくり
- 筋道を立てて考え、考えを伝える力の育成
- ICT を効果的に活用する力の育成

【経営課題】

- 義務教育学校の特色を生かした組織と運営の在り方の改善
- 情報・ICT 教育の推進
- 教師一人一人の授業力・生徒指導力の向上

【重点目標】

自分の考えをつくり伝える子どもの育成

【経営の重点】 義務教育学校の特色を生かした教育課程の編成と組織運営

〔重点目標達成にむけた取組の内容〕

1. 考えをつくる（考えよう）取組

- ①学習過程へ考えをつくる活動の位置づけ
- ②日常のテスト等をもとにした評価の実施

2. 考えを伝える（伝えよう）取組

- ①考えを伝えるための ICT 機器の活用
- ②ICT 機器の活用頻度と内容に関する評価の実施

〔経営において重視する視点〕

- 授業改善の推進
- 情報・ICT 教育の充実
- 生徒指導の充実
- キャリア教育の充実
- 義務教育9年間を見通した教育の推進
- 学校運営協議会、地域学校協働活動の充実

校務運営構想

教務運営構想

重点目標「課題解決ために、自分の考えをつくり伝える子どもの育成」の意味

昨年度は、重点目標を「主体的に考え課題解決を図る子どもの育成」として、教育活動に取り組んだ。その成果として、落ち着いて学習に取り組む姿や友達と協力しようとする姿が見られ、学年に応じた基礎的な学力の定着を図ることができた。

しかし、下の資料からもわかるように、課題として、主体性や話の内容をつかみ筋道を立てて考える力・自分の考えを正確にわかりやすく伝える力等に不十分な面が見られる。

課題に関する資料 (令和4年度 全国学力・学習状況調査(6年、9年)の結果から)

	問題の内容	本校の正答率%	全国の正答率%
6年 国語	登場人物の相互関係について、描写をもとにとらえる	56.3	70.6
6年 算数	正三角形の構成の仕方について考察し、記述する。	25.0	48.8
9年 国語	論理の展開などに注意して聞き、適切なものを考える	41.7	65.1
9年 数学	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する	8.3	38.4

主体性とは自分の意思・判断で行動する態度や性質を意味しており、主体性を身につけさせるには、筋道を立てて考えをつくりその考えをわかりやすく伝える力を育てることが必要となる。

上記の課題を解決し学校の教育目標を達成するために、重点目標を「自分の考えをつくり伝える子どもの育成(合い言葉 考えよう伝えよう)」とする。

現行の学習指導要領においては、知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養が偏りなく実現することが求められており、そのことは本校の課題解決のために重視すべき内容と合致している。

「考えをつくる」姿として、ノートやプリント等に課題解決のための考えを集中して書いている様子をイメージする。課題を把握し、解決のために必要な情報を取捨選択しながら整理し、情報をもとに結果を予想しながら根拠をもって解決策を書いている姿である。

「考えを伝える」姿として、グループの友達や学級全体の友達に向かって、タブレットや電子黒板の画面を指さして自分の考えを説明する様子をイメージする。画面に結論や根拠となるデータを映し出しながら、結論を明確に、順序よく文脈を整理して説明している姿である。

このような子どもを育てるために、以下のような取組を行っていく。

重点目標達成に向けた取組の内容

1. 考えをつくる(考えよう)取組

- ① 学習過程に、ノートやプリント等に自分の考えを書く活動を位置づける。
- ② 日常のテストや観察等をもとにした評価を定期的に行い、次の活動に役立てる。

2. 考えを伝える(伝えよう)取組

- ① 考えを伝える場面で、タブレットや電子黒板等の ICT 機器を効果的に活用する。
- ② ICT 機器の活用頻度と内容についての評価を定期的に行い、効果的な活用に役立てる。

取組を具現化するために、校務運営構想、教務運営構想において組織運営や教育課程の編成等と関連を図るとともに、主題研究における研究構想や学力向上プラン等においてさらに計画を具体化していく。

以上のように、「課題解決のために、自分の考えをつくり伝える子どもの育成」を重点目標として設定し、考えをつくる・伝えるの2つの視点から取組を具体化して教育活動を実施・改善することで、本校の課題を解決し学校教育目標の達成に迫ることができると考える。